



# 『季節の宅配便』 近大米をお届けします

今回は農場便り(Vol. 4)で紹介した“お米の栽培について”の第2弾です。  
みどりのじゅうたんだった田んぼが、黄金色のじゅうたんに。

8月上旬



田植えをしてからおよそ2カ月がたち、ようやく稲穂がでてきました。

9月中旬



9月の台風で少しイネが倒れたものの、イネはすくすくと黄金色に成長しました。

9月下旬



いよいよお米の収穫時期。学生さん(農学部農場実習)とともに、コンバインで脱穀(イネから稲を分ける作業)しました。

10月上旬



写真の機械で稲を玄米と籾殻に分ける作業をします。この作業を“籾すり”といいます。(右の写真は機械に稲を投入しているところ)



籾すりをした後にできた玄米。これを精米するとみなさんがいつも食べている白米になります。

## ★お知らせ★

**11月2~3日 生物理工学部祭**  
**11月3日 農学部祭**  
に附属農場が出店します。

湯浅農場と生石農場でできたミカンジュース、米、梅干、梅シロップ等を販売します。  
お時間が許される方は、ぜひお立ち寄りください。